

ミルピタス地区東側は井七セウ国道(ミニスワリーウェイ)。西側はバーがとまいた
ほまき北側はミミセ道路(昔のミミセバスマルビルをめぐって)道路とよばれ
居りました仲にありました畑はマクドナルドさんの所有地であり大部分は
フルーシールキヤブとあり南隣りはオウクラッドと、おれどこの屋敷ありました。
白人の畑もありました。マクドナルドさんはスタラハン市にオフイスを

持つて居られましたのでミルピタスの畑は同じ屋敷敷地に住われ
マクドナルドさんの信任の厚かつた矢野探郎一家が畑の地主(但し一切をわけて
居られませんでした)其の間ミルピタス村の同胞の村長格として深山のようすが色々
ゆせ話柄にあづかつて居りました事柄の此処に書き印すはむなり自名の
事柄であります

此処に(一)筆物の記憶に鮮明に残つて居ります。矢野龜雄(自叙傳)の友人と成り
まき白き加えて運まきマキある日矢野探郎が畑を男使りにとまわて居られ
ました所。見知らぬ白人のおぢがマクドナルドさんの家へ来たのでおわてまわられ
まじかしそらにぶるんこと家の回りを見て居られまこととす

矢野探郎はふじぎに思われ畑から来て何か御用ですかとたすおれまじな
其の時其のうちは知はマクドナルドさんの弟である船長としてたせに
からの滞り道船がサンプラミンセスにマクドナルドの是非をマクドナルドさんに
ありたりと思ひ都合をいそミルピタスに来た船は明日出帆の予定で

あるとそれを聞かれた矢野探郎はマクドナルドさんはスタラハン市のオフイス
のように居られるのが真に御察めとある物もとりあえず其の時
また同胞の好むあまり自動車をもつて居らぬ時でありました

矢野探郎は自分の自動車でスタラハン市と向はれまこと遠くあり
弟探郎はまたかまたか聞かれたことありましたゆふやスタラハン市の
兄弟のオフイスに於て何十年ぶりの御兄弟の会合でありました
マクドナルドさんは涙を流され此の機会をのがしたならば想はらんは
一歩弟探郎に会ふ事が出来なかつたであろうと矢野探郎の御心切を
と比べたといふ事でありましたとす

矢野探郎夫妻は御前此うなうまでありました

呂會畑の角をF. E. が五英加程と買ひまゝにしてすまじきルマスターミナル
ステーションが建てられて居ります畑はミルビエの角の角オニヤエブルヤ人の
家族の所有地でありました。一度は買ひ取られたのは畑の北面の角を
エブルヤ人の畑の東南の角とはミルビエの道路をけいんじ接続した形に
なして居り。千九百二十一年に此の畑の女のオニヤエブルヤ人とオニヤエブルヤ人の
間に借り畑と二ツわけにしてセロリと酒り畑ありました。今は其の別々の年日本から
越が買ひ取られたがミルビエの若い製畑の間にセロリの少少耕作をされて
居られた時は日本から来て居りました。千九百二十一年にオニヤエブルヤ人
招きもわからぬヤセでありました。其の頃から天野畑にはブルボールの
見物だ魚つりなどミルビエ天野畑が所管である酒り畑に建てられて行て
下された事と畑の「まゝと道」をたれた事と其の年より酒りの思出となつて居ります
エブルヤ人の畑とエブルヤ人の畑が買ひ取られたのは千九百二十一年の酒りの思出となつて居ります
改良畑に致した時は天野畑は南隣りの白人の畑を借られ其の角とことば
他の角より歩進んだ女園法で自分の新作畑と自分の酒りの酒りに満載されて
真接サミルビエの角ツサリーの得意先にある事と其の年より酒りの思出となつて居ります
ました。千九百二十一年に知あつた家がエブルヤ人の酒りの酒りに満載されて居ります
二世ミルビエがエブルヤ人の畑を買ひ取られた事と其の年より酒りの思出となつて居ります
天野畑とは真接の角隣りとなつた事と
其の後天野畑の親友の酒りでエブルヤ人の畑を買ひ取られた事と其の年より酒りの思出となつて居ります
西川氏の登起で西川氏のお隣りの玉田の家と西川氏の畑を買ひ取られた事と
相瀬畑の家カミエの大農中尾畑の家と天野畑の家のお隣りの酒りの思出となつて居ります
小山の家と知あつた武田と計七家族の同志が東部を酒りに出た
秋ピーの耕作とミルビエの酒りの思出となつて居ります
あつた園地吉太郎氏はミルビエの酒りの思出となつて居ります
あつたウエスタミルビエの鉄道会社のミルビエからミルビエの酒りの思出となつて居ります
時には天野畑の酒りの思出となつて居ります
於てピー酒りの大百姓を勧めて居られた事と

皆たれもかれもがやうやく長年の夢野がむらりられ事なまよ
順調に軌道に乗つて参りまゝた矢先に第二世界大戦となり
太平洋岸三州の同胞の總立退き命令となりなにもかにも
水の灘となつてしまひました泡

千九百四十九年春大戦終結退き命令解除になりましたので
私等も最後の文返り先となつて居りましたところド州のグロウ
から昔春にこれピタスのおらんの畑に降りまゝたが人手の運
むづかしくどうしたものが心配として居りましたお間もなく
収容処が閉鎖となりまゝたはからずもコロロド州に自由立ち
まゝたて居られまゝた矢野の門の方々の援助にあづかり又

収容処でお知り合ひになつたころ々々自分自身の仕事
に専念する事になりまゝたはからずもコロロド州のグロウ
の畑に降りまゝたが人手の運むづかしくどうしたものが心
配として居りましたお間もなく収容処が閉鎖となりまゝた
はからずもコロロド州に自由立ちまゝたて居られまゝた
矢野の門の方々の援助にあづかり又
煙と購ひまゝたはからずもコロロド州のグロウの畑に降り
まゝたて居られまゝた矢野の門の方々の援助にあづかり又
方々阿部庄司林の濃厚な雨人柄と特にメカニクに伎倆をおも
りでありまゝたはからずもコロロド州のグロウの畑に降り
まゝたて居られまゝた矢野の門の方々の援助にあづかり又
佐々木良天師にはお無理と願つて長期間ホーマンを引
き返して頂戴し佐々木氏にはお無理の仕事も引下して長
期間お援助にあづかりまゝたはからずもコロロド州のグ
ロウの畑に降りまゝたが人手の運むづかしくどうした
ものが心配として居りましたお間もなく収容処が閉鎖
となりまゝたはからずもコロロド州に自由立ちまゝた
て居られまゝた矢野の門の方々の援助にあづかり又

著者

此度天野藤子様より北針(またばり)の出来を贈りにあづかりまゝた
北針とは彼等寺の生命を保証する磁石の事である著者大野芳氏の解説
にありまゝたはからずもコロロド州のグロウの畑に降りまゝた
が人手の運むづかしくどうしたものが心配として居りました
お間もなく収容処が閉鎖となりまゝたはからずもコロロド
州に自由立ちまゝたて居られまゝた矢野の門の方々の援助
にあづかりまゝたはからずもコロロド州のグロウの畑に
降りまゝたが人手の運むづかしくどうしたものが心配
として居りましたお間もなく収容処が閉鎖となりまゝた
はからずもコロロド州に自由立ちまゝたて居られまゝた
矢野の門の方々の援助にあづかり又

此処を著者のまゝにまゝたはからずもコロロド州のグロウの畑に
降りまゝたが人手の運むづかしくどうしたものが心配
として居りましたお間もなく収容処が閉鎖となりまゝた
はからずもコロロド州に自由立ちまゝたて居られまゝた
矢野の門の方々の援助にあづかり又

石田平助氏四十七歳 平助氏は伊井家の次男であり大州町の石田家の姓をもらうにけり。諸君にて石田家の嗣子とあられると長兄伊井市伊知三郎氏は同村の上野菊松伊田三郎兄弟ありも数年前早逝に渡米をて居られたと此の伊井伊知三郎氏は伊井謙氏と伊野陸子様方の祖とであられると。

第九頁と第七十三頁の

よんをの付く天性の社元家とあられた石田忠氏は古浪真治氏のまや十氏の弟と貞治氏の義弟とであられると

あるに十四年三月廿五日佐々木良史向夫婦の揃りて兩隣村もつれられ此宅と所訪ねにさりました。現在も真細代で余生を兩隣りになつて居られる向老母佐々木惠孫のし十の兩親にミセスと名に兩月をかね又同じく故郷に余生を兩隣りになつて居られます。十歳のミセス佐々木孫と阿部庄司様の向老母様の所訪ねに行かれて高事トサシラセに兩隣りになりわざわが向老母様とあつたの所訪ねにありました。

其の傍佐々木良史様より佐々木様の所宅は石田忠氏との最も所近い所とあられると承りました。

第二十八頁

真細代の阿部大三郎氏が立間村の加賀真城金吾氏から

三百本の温州密柑の苗木を譲り受けられてそれを

阿部庄右衛門氏と土川音次氏に分け与えられたこれが

真細代での温州ミカンの植え初めである

阿部大三郎氏が当地の阿部庄司氏の租又とあられ又

矢野家寄所にて兩親戚とあられると云ふ

佐々木良史様阿部庄司様方には大正大戦終結立退命令解除に

合うました当時物共ミカンの畑での重要なたんには其つて

兩援助にあたりました。而立派な事とであられる事は

前の方の頁にも書きます。仰せを頂戴いたします。

